

小平市の学校教育の重点

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

学校教育目標

- 考える子
基本的な生活習慣を確実に身に付け、自立心を育てる。
- やさしい子
互いに助け合い、思いやる豊かな心を育てる。
- 元気な子
ねばり強く最後までやり通す気持ちを育てる。

【願い】

- 児童・教師・保護者・地域
- 「わかりたい」「楽しく勉強したい」「みとめてもらいたい」
- 「身につけてほしい」「わかってほしい」
- 「すこやかに育ってほしい」
- 「やさしさをもってほしい」

学習指導の重点

- 確かな学力を定着させる。
 - ・基礎、基本のワークテストで正答率8割以上を目指す。
 - ・特に主体的・対話的活動を各教科で増やすことで、深い学びを行う。
- 学習への意欲を高める。
 - ・問題解決的な授業や体験的な学習の時間を増やしたり、工夫したりする。
- 読書活動を推進する。
 - ・校内の読書環境を整備し、読書に親しめるようにする。
 - ・並行的な読書活動ができるよう、各単元にあった本を読めるよう準備する。
- 外国語活動や外国語科での体験的な理解を図る。
 - ・ALTや講師を活用して、英語に慣れ親しませたり、コミュニケーションを図る楽しさを体験させたりする。
 - ・5年生は、「聞く・話す・読む・書く」の基本的な活動、6年生では、中学校との連携を通じて力を付ける。

総合的な学習の指導の重点

- 全体計画をもとに、計画的に学習を進め、保護者・地域・学生ボランティア等の参画型授業を積極的に進める。
- コーディネーターとの連携を図り、児童の多様な課題に応える。
- 4年生を中心に「福祉教育」を重点の1つとして、学年の実態に応じた体験的な活動や調べ学習を通じて、福祉への関心を深め、実践的態度を身に付けさせる。
- 6年生では、興味のある分野を自分で決め、体験活動や調べ学習を通して自己の生き方を考えさせる。

進路指導の重点

- 各教科や総合的な学習の時間等の領域において、体験学習を通し、将来への見通しをもたせることを目指したキャリア教育の充実を図る。
- 小・中連携の活動を生かし、GTの人材確保や施設の受け入れ先等、情報交換しながら進める。
- 児童が自己理解を深め、自己有用感をもち将来にわたる生き方を考えられるようにする。

学校経営方針

＜目指す学校の姿＞
学校・地域・家庭が互いに育て合い、子ども一人一人が輝く学校

重点課題

- ①学校
 - ・小・中連携の推進
 - ・特別支援教育の視点に立った教育の推進
- ②児童
 - ・思いやりの心や社会生活の基本的なルールを身に付けさせる。
- ③家庭・地域
 - ・家庭や地域と共に子どもを育てる。

本校における「確かな学力」のとりえ方



道徳教育の指導の重点

- 自分を深く見つめる心を育て、節度をもって誠実に行動する態度を養う。
- 互いに思いやり、誰に対しても温かい心で接する態度を養う。
- 約束やきまりの大切さを実感し、人々のために尽くそうとする態度を養う。
- 道徳の様々な内容項目を扱いながら、情報モラルを育むような授業づくりを行う。
- 月ごとに道徳の時間の重点目標を定め、学校全体として指導に取り組む体制を整える。

特別活動の指導の重点

- 所属する集団の一員としての役割を自覚し、集団の運営に進んで参加し、その向上・発展に尽くす態度を育てる。
- 他の成員と協力して、楽しく豊かな生活を築くことができるようにする。
- 異年齢集団の活動を通して互いに交流し、望ましい人間関係をつくる。

生活指導の重点

- 「三小のきまり」をもとに、きまりを守り、楽しい学校生活が送れるようにするとともに、自主的に行動する児童の育成に努める。
- 場に応じた挨拶ができるようにする。
 - ・学級指導の充実
 - ・始業終業の挨拶の徹底
- 授業規律を大切に。
 - ・「はい」「立つ」「です」の徹底

特別支援教育

- 三小スタンダードを活用し、支援体制を整備する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○問題解決的な授業や体験的な学習を重視する。 ○東京方式を踏まえた習熟度別指導の指導を工夫する。 ○レディネステストを活用し、個々の力を正確に把握し、指導に生かす。 ○授業内における適切な評価を実施し、次の指導へ生かす。 ○地域参画型の授業を充実させる。 ○国語科における並行的な読書を実施する。	○「基礎・基本定着の時間」として毎週2回15分間朝学習を実施する。(計算・漢字・読書) ○「東京ベーシック・ドリル」(電子版)を効果的に反復活用し、習熟を高める。 ○効率よく校務を行い、会議の精選を行う。 ○年間を通しての行事を精選し、特に1学期は、学級経営と学習の体制づくりの期間とする。	○「一人一台学習者用端末の効果的な活用～ICTの活用で主体的・対話的で深い学びを再定義する～」を主題とする校内研究に取り組み、端末の活用を通じて、児童の主体的な学びを深める。 ○分科会毎に研究授業を行う。分科会毎に授業を見合い、指導案を作成する。互いを高め合うことができるように時間設定を行う。ベテランの授業力を若手に分かりやすく伝えられるようにする。 ○OJT研修の実施 研究部が中心となり、研修を企画し、全教員対象の「きつかり研」を計画的に実施する。 ○効果的な習熟度別のあり方を検討する。 ○学力向上課を中心に、正確な実態把握に基づいた授業改善を推進する。	○学校経営協議会・保護者・地域の方・児童による学校評価の実施。 ○ICTのアンケート機能等を利用して、評価を実施する。 ○年に1回、児童による評価(学習・生活)を実施する。	○情報の積極的な発信を目指す(ホームページ、学校だより、学校ブログ、連絡帳カレンダー等)。 ○地域の教育力を推進するために、学習支援ボランティアを活用したり、地域参画型授業を充実したりする。 ○地域への貢献活動に取り組む。 ○「SNS 東京ノート」を活用した授業を行い、SNSを使う上でのルールについて再確認をする。 ○地域・保護者と共に、情報を共有し、対策を考える。 ○上水中和連携し、生活指導、学習、特別支援の共通した実践を行う。